

指導資料

特別支援教育 第207号

鹿児島県総合教育センター
令和2年10月発行

対象 小学校 義務教育学校
校種 特別支援学校



読み書きに困難がある児童に対する通級指導教室での取組 ～見る力・聞く力を高める指導・支援を通して～

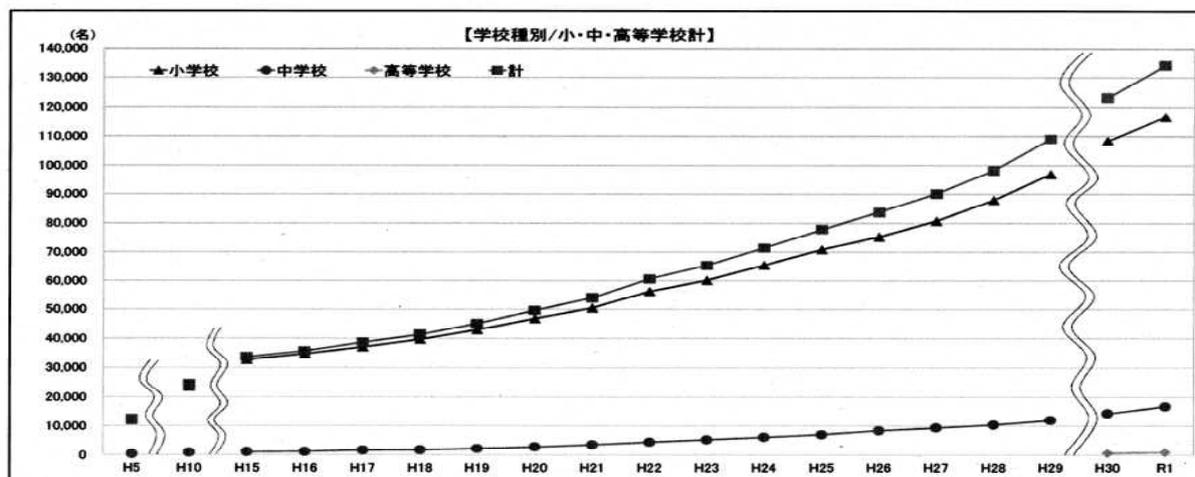
特別支援教育の対象となる児童が増加傾向にある中、通級指導教室に通級する学習面で困難を抱える児童も年々増えてきている。本稿では、通級指導教室で学ぶ読み書きに困難がある児童に対する、見る力・聞く力を高めるための指導・支援について紹介する。

1 はじめに

通級による指導（以下、通級）とは、通常の学級に在籍しつつ、週に数時間、通級指導教室において、一人一人の困難や課題に合わせた指導・支援を受けるという形式の特別支援教育に基づく平成15年度から開始された教育制度の一つである。

図1は、通級による指導を受けている児童生徒数の推移である。この10年間で対象の児童生徒数は約2倍以上に増えており、平成30年度からは、高等学校での通級による指導も始まるなど、通級のニーズは高まってきている。

通級では、障害による学習上又は生活上の改善・克服を目的に、特別支援学校学習指導要領に示される「自立活動」の指導を行うが、その指導方法は多くある。今回は、学習上の課題に焦点を当て、文字を流暢に読む、文字や図を正しく読み取る、意味を理解し、書き写す力や、他者からの指示に従う、対話をする力を高めるといった視覚・聴覚認知機能（見る力・聞く力）を高めるための一般的な活動例を紹介する（表1）。



※ 平成30年度から、国立・私立学校を含めて調査。
 ※ 高等学校における通級による指導は平成30年度開始であることから、高等学校については平成30年度から計上。
 ※ 小学校には義務教育学校前期課程、中学校には義務教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程、高等学校には中等教育学校後期課程を含める。

図1 通級による指導を受けている児童生徒数の推移

表1 視覚・聴覚認知機能（見る力・聞く力）を高める活動例

1 視覚による 弁別	① 形、色、大きさなどによって物を分類する。 ② カップや型はめなどで、サイズを見分ける練習をする。 ③ 身近な物の同じ形集めをする。 ④ 色や形を使ったカードゲームをする。 ⑤ パズルや型はめをする。 ⑥ ストローやモールなどを使って、形、文字、図形などを作る。 ⑦ 背中に指で文字や形を描き、それが何かを当てる。
2 図地の弁別	① 「かくれんぼ絵本」や図形さがしなどのゲームをする。 ② ジグソーパズルをする。 ③ 迷路をする。 ④ 図形や文字の形を上からなぞる。 ⑤ 一部が欠けた図形や文字を提示して、欠けた部分を完成させる。
3 空間の認識	① 図形を組み合わせたパターンを写す（モザイク、積木模様など）。 ② ジオシートのデザインを写す。 ③ 点を結んで完成させる絵や迷路をする。 ④ 図を見て作る模型や工作、手芸などをする。 ⑤ 簡単な地図を描く。通り道などをなぞる。 ⑥ 相手のポーズを見て身体模倣する。 ⑦ 神経衰弱、カルタ、五目並べ、オセロなどの位置に関するゲームをする。
4 視覚的な記憶	① 物を並べて記憶させ、その中から一つの物を取り除き、取り除いた物を当てる。あるいは、位置を変えて最初の位置に戻す。 ② 積木やビーズなどで作った模様を見せ、記憶を頼りに同じものを作る。 ③ 並べた順番を覚えさせ、それを変えて提示し、最初の順に直す。 ④ 神経衰弱ゲームをする。最初はカードをきちんと整列させて行う。慣れてきたら、カードの向きをばらばらにする。 ⑤ 絵や写真を見せ、その中にあったものを思い出す。
5 聴覚による 弁別	① 楽器の絵カードと楽器の音とのマッチングをする。 ② 身近な物の音を聴いて、その物の名称を答える。 ③ 楽器の音を聴いて、強い音と弱い音を聞き分ける。 ④ 楽器のカードを聴いた音の順番に並べ替える。 ⑤ 2～3種類の楽器の音を同時に聞いて、その楽器の絵カードを選び取る。
6 音韻の意識	① 「○○」の付く言葉を探す。 ② 一文字抜いた言葉を言う。 ③ モーラすごろくをする（カードの音の数だけ進む）。 ④ 反対言葉を言う。 ⑤ 文字の中に隠れた動物を答える。

2 読み書きの困難がある児童の見る力・聞く力を高める指導事例

表1の活動例を生かし、読み書きの困難がある児童A（第5学年）に対する、県総合教育センターの研究協力員の指導実践を紹介する。

【状態像】

- ・ 見る力が弱く、文字の読み書きに困難がある。

【実態把握】

＜指導前の行動観察用チェックリスト（当課作成のチェックリスト）の結果（図2）＞

見る力					聞く力				
行動観察項目	1：よくある	2：たまにある	3：あまりない	4：まったくない	行動観察項目	1：よくある	2：たまにある	3：あまりない	4：まったくない
1 板書の描写で、縦横に黒板を確認する。				○	1 周囲の行動を見てから行動するため、動きがワンテンポ遅い。				○
2 音読の際、読んでいるところをなぞるように顔を上下・左右に動かす。				○	2 全体への指示の後、何度も聞き返す。				○
3 音読が遅く、ただたどしい。				○	3 話しでは、ほとんど発言しない。			○	
4 音読の際、文字や語句、行を抜かす。				○	4 指示を聞き間違えたり、取り違えたりする。			○	
5 似ている文字や単語を読み間違える。				○	5 ベーパーテストに比べて、聞き取りテストの成績が著しく悪い。				○
6 同年齢と比べて、書き文字が著しく乱れている。				○	6 口頭での説明では理解が難しく、ポイントが捉えられない。				○
7 教科書のどこを読んでいるか見失う。				○	7 個別に言われると聞き取れるが、集団場面では聞き取れない。				○
8 読んだ文章の意味がつかめない。				○	8 説明を聞いているときに、目をそらすことがある。				○
9 覚えて書けるようになった漢字を書き間違える。				○	9 学校生活全般でキョロキョロしていることがある。				○
10 独特の筆順で書く。				○	10 聞きもらしがあがる。				○
11 はみ出さないように、線をなぞることができない。				○	11 指示どおりに行動したり、やり違えたりすることが難しい。				○
12 文字の大きさを学年相当のマス目の大きさに合わせられない。				○	12 質問に対して、言葉につまる。				○
13 まっすぐ文を書くことができない。				○	13 質問が終わらないうちに出し掛けに応じてしまう。				○
14 似た記号の差異がわからない。				○	14 含みのある言葉や嫌みが分からない。			○	
遂行課題 1：できない 2：あまりできない 3：ほとんどできる 4：できる	1	2	3	4	遂行課題 1：できない 2：あまりできない 3：ほとんどできる 4：できる	1	2	3	4
15 遂行課題1（図形の模写）				○	15 遂行課題1（指示の遂行）				○
16 遂行課題2（形の見分け）				○	16 遂行課題2（復唱）			○	
17 遂行課題3（点つなぎ）				○	17 遂行課題3（聴覚模倣）				○
18 遂行課題4（素早く読む）				○	18 遂行課題4（指差し）			○	
19 遂行課題5（重なった図形）				○	19 遂行課題5（音韻操作）			○	
20 遂行課題6（文章を読む速度）				○	20 遂行課題6（文章の理解）				○

図2 指導前の行動観察用チェックリストの結果（令和元年6月実施）

見る力の行動観察項目では、「音読が遅い」、「似ている文字を読み間違える」、「読んだ文章の意味がつかめない」、「覚えた漢字の書き間違いがある」など、「よくある」に当てはまる項目が合計12項目あった。

聞く力の遂行課題項目では、遂行課題である「聞いた単語の順に形を指差しする」、「逆さま言葉を使う」や「音抜き言葉を使う」が「できない」という結果だった。

＜学習全般に関する実態把握＞

- (1) 平仮名の清音は単音だと6割程度は読むことができる。しかし、三音以上の単語になると、時間が掛かったり、読み間違ったりすることが多い。
- (2) 書きは視写が苦手なため、教師が言った言葉を聞いて書くことは、平仮名のみだと6割程度正確に書くことができる。一音ずつ教師と一緒に確認しながらだと正しく書くことができるが、形を覚えていない平仮名もある。
- (3) 自分のやるべきことや取り組み方が分かれば、集中して取り組むことができる。学習ができるようになりたいという意欲は高く、未定着の既習事項に取り組む際、支援を求めることができつつある。

【目標】

読み書きの困難さを軽減するために、自分に適した学び方を理解するとともに、課題に取り組んだ後に、自分で間違えた箇所を修正することができる。

【指導】

- (1) ビジョントレーニング（視知覚機能を高める活動）や知覚-運動学習及び特殊音節に関するワークシートを通して、視覚からの情報の理解や記憶力を高める。また、書いたものを自分で再度確認し、修正する活動も取り入れる。
- (2) 音韻を意識させる活動（しりとりや言葉の合成・分解など）や話を聞いた後、問題に答える活動を通して、聴覚からの情報の理解や記憶力を高める。
- (3) 課題に取り組む前に学習上支援してほしいことを、教師に具体的に伝える場面を設定する。また、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、思いを伝えられるようにする。

【支援】

- (1) 読む漢字にふりがなをふる。
- (2) 文字を指で押さえる。
- (3) 絵や写真を利用する。

【通級における指導の実例 I】

1 指導目標

- ・ 対象物を最後まで目で追ったり、探したりすることができる。
- ・ 教師の指示や言葉を聞き、札を取ったり、正しい単語を答えたりすることができる。
- ・ 活動の中で分からないことがあった際は、教師に支援を求めることができる。

2 指導の実例

過程	主な学習活動	指導上の留意点
導入	1 始めの挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつことができる。
	2 本時の学習の確認	
展開	3 1週間の出来事の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の記録を確認して目標設定することで、一つ一つの活動について意欲的に取り組むことのできる状況づくりを設定する。 ・ ビジョントレーニングでは、A児の集中が持続するように、お手玉や迷路から目を離さずに活動するようにこまめに言葉掛けを行う。 ・ 文字当てクイズで、背中に書かれた文字の形を意識しにくいときは、一部分を書いたカードを示すことで考えやすいようにする。 ・ カルタは、札数を20枚程度とし、A児側から上下正しく見える形に並べることで探しやすいようにする。 ・ しりとりでは、3分という時間制限を設定することで、集中して聞き、考えることができるようにする。 ・ 書き取りでは、聞き取った単語を自分でも言いながら書き取り、書き終わり次第、指で1文字ずつ確認することでA児が自分で確認・修正することができるようにする。
	4 お手玉をバケツに入れる（ビジョントレーニング）	
	5 数探しをする（ビジョントレーニング）	
	6 迷路をする（図地弁別）	
	7 文字当てクイズをする（視覚弁別）	
	8 カルタ取りをする（空間認識）	
	9 しりとりをする（音韻認識の向上）	
	10 書き取りをする（書く力の向上）	
終末	11 頑張ったことの発表	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りの場面では、A児の頑張りを具体的に称賛することで達成感を感じることができるようにする。
	12 終わりの挨拶	

【通級における指導の実際Ⅱ】

1 指導目標

- 自分の書いた日記文を指で押さえながら読み、正しく書き直すことができる。
- 教科書の文章を指で押さえながら、正しく音読することができる。
- 教師と一緒に「とめ」、「はね」、「はらい」を言葉で確認しながら、漢字の形を意識して書くことができる。

2 指導の実際（一部抜粋）

過程	主な学習活動	指導上の留意点
展開	1 自分が書いた日記文を音読する。	<ul style="list-style-type: none"> 五十音表を用意し、平仮名の形や読みを一緒に確認することで、平仮名を正しく読んだり書いたりすることができるようにする。 音読の際は、一文字ずつの拾い読みではなく、文節毎に音読することができるようにはさみ読みの指導を行う。 間違えた漢字は部分ごとに色分けして板書したり、形を言葉で表現したりすることで、漢字の形を意識できるようにする。
	2 間違った部分を書き直す。	
	3 教科書の音読をする。	
	4 漢字の書き直しをする。	

【評価】

【指導後の行動観察用チェックリストの結果（図3）】

見る力					聞く力				
行動観察項目	1：よくある	2：たまにある	3：あまりない	4：まったくない	行動観察項目	1：よくある	2：たまにある	3：あまりない	4：まったくない
1 仮名の祝号で、頻りに無故を確認する。				○	1 周囲の行動を見てから行動するため、動きがワンテンポ遅い。				○
2 音読の際、読んでいるところをなぞるように顔を上下・左右に動かす。				○	2 全体への指示の後、何度も聞き返す。				○
3 音読が遅く、たどたどしい。				○	3 話し言葉では、ほとんど発言しない。			○	○
4 音読の際、文字や語句、行を抜かす。				○	4 指示を聞き間違えたり、取り違えたりする。				○
5 似ている文字や単語を読み間違える。				○	5 ペーパーテストに比べて、聞き取りテストの成績が著しく悪い。			○	○
6 同年齢と比べて、書き文字が著しく乱れている。				○	6 口頭での説明では理解が難しく、ポイントが捉えられない。				○
7 教科書のどこを読んでいるか見失う。				○	7 個別に言われると聞き取れるが、集団場面では聞き取れない。				○
8 読んだ文章の意味がつかめない。				○	8 説明を聞いているときに、目をそらすことがある。				○
9 覚えて書けるようになった漢字を書き間違える。				○	9 学校生活全般でキョロキョロしていることがある。				○
10 独特の筆順で書く。				○	10 聞きもちがある。				○
11 はみ出さないように、線をなぞることができない。				○	11 指示どおりに行動したり、やり違えたりすることが難しい。				○
12 文字の大きさを学年相当のマス目の大きさに合わせられない。				○	12 質問に対して、言葉につまる。				○
13 まっすぐ文を書くことができない。				○	13 質問が終わらないうちに話し掛けに反応してしまう。				○
14 似た記号の差異がわからない。				○	14 含みのある言葉や嫌みが分からない。				○
進行課題 1：できない 2：あまりできない 3：ほとんどできる 4：できる					進行課題 1：できない 2：あまりできない 3：ほとんどできる 4：できる				
15 進行課題1（図形の模写）				○	15 進行課題1（指示の遂行）				○
16 進行課題2（形の見分け）				○	16 進行課題2（復唱）				○
17 進行課題3（点つなぎ）				○	17 進行課題3（聴覚類推）				○
18 進行課題4（素早く読む）				○	18 進行課題4（指差し）				○
19 進行課題5（重なった図形）				○	19 進行課題5（音韻操作）				○
20 進行課題6（文章を読む速度）				○	20 進行課題6（文の理解）				○

図3 指導後の行動観察用チェックリストの結果（令和元年10月実施） 指導後 ○

【教師の観察による評価】

- 音読の際、一文字ずつ指で押さえながら読む中で「横線二本だから『ほ』だな。」など、間違いやすい平仮名の形を言語化して確認できるようになったことで、読み間違いが減少した。前は音読の検査に消極的だったが、今回は進んで音読に取り組む姿が見られた。
- 30字程度の短文の復唱はできるようになったが、音韻操作や200字程度の文を聞いて、質問に答えることはまだ難しい様子が見られた。今後も継続していきたい。

3 おわりに

指導後、児童Aは見る力・聞く力の向上が見られるとともに、学習への自信が高まり、周囲に支援を依頼することができるようになった。

今回の通級指導教室での取組を参考に、児童一人一人の課題を的確に捉え、改善を図れる指導・支援を丁寧に行うことが大切である。

—引用・参考文献—

- 令和元年度 通級による指導実施状況調査結果について 文部科学省 2020年
- 研究紀要 第124号 鹿児島県総合教育センター 2020年
(特別支援教育研修課 阿久根 剛)
- ※ 見やすいフォントを使用しています。